

## 宇治島の有用樹種及びウサギ害の調査

日高 哲志

鹿児島大学多島圏研究センター

### Tree plants of Uttchima Island

HIDAKA Tetsushi

Research Center for the Pacific Islands, Kagoshima University

#### 植生概況

##### 海岸部（小浦波止）

上陸は、避難港としてコンクリートの岸壁及び防波堤も整備されている、南西部海岸の小浦波止であった。ここはその南に続く片浦波止とともに、本島に発達しているわずかな小扇状地の一部となっており、いずれも高さ 10～30m の海食崖で囲まれていた。それら海食崖とコンクリートの間のわずかな空き地、あるいはコンクリートの割れ目や海食崖を形成している岩の所々に、ギンギシ、ハマウド、ハマユウ、ハマナタマメ、オニヤブソテツ、ツルナ（1人で食べ尽くせる程度？）などの海岸植物が点在していた。

##### 小浦波止～小扇状地

海岸部に流れ込んでいる小さな流れの両脇に広がっている小扇状地は、海拔 20m 近くまでニオウヤブマオの群落となっており、その下部には所々コウライシバが生えていた。コンクリートの廃屋の後ろにはクロマツが 3 本並んで生えていたが、これは人為的に植栽されたもののように見えた。そのままニオウヤブマオの間を海拔 10m ほどまで上って行くと、扇状地から南の谷へ入っていく、南日岳へ続くコンクリートの階段が現れた。

##### 南日岳西～西南部山地

南日岳へと続く階段を上っていくと、ニオウヤブマオの群落はすぐに終わり、樹高 5～7m のモクダチバナが優占種となっている林の中を進んだ(図 1)。林は、ハマビワ、ヤブニッケイ、タブ、イヌビワ、クワノハエノキなどの他、まだ若い果実をつけたシマグワ (図 2) などが混じっていた。シマグワは直径 20～30cm

ほどの大きさの木も認められ、ムベ（図3）なども巻き付いていた。林床にはイシガグマ、ハチジョウシダ、フウトウカズラなどが認められ、また、本島の特産とされているナンゴクアオイの小群落（図4）があちこちに点在していた。階段を上るにつれ、ハマビワがかなり多くなったが、林床にはナンゴクアオイの小群落とともに、ムサシアブミの小群落もあちこちに目立ち、妖艶な花を咲かせているものや幼果をつけたものも認められた。

階段を上りきるとすぐに南日岳頂上で、ここには灯台が設置されていた。この灯台に至る階段の途中、海拔 80mほどのところから、モクタチバナやハマビワが混じる斜面を南西方向に巻き、標高 65mほどの片浦波止直上部に向かった。この付近のモクタチバナやハマビワは樹高 4~5m 前後で、階段がある谷部のそれらよりやや樹高が低く、また、樹冠も粗で、やや開けた林となっていた。南日岳南部の尾根付近から東部一帯にはリュウキュウチクの群落が広がっており、それに続く片浦波止直上の海食崖上部の尾根一帯にはハマヒサカキが美しい群落を作っていた。ハマヒサカキの群落を左に見てそのまま進むと、シャリンバイ、トベラ、マルバグミ（図5）など矮性木が点在する片浦波止を囲む海食崖の直上に出た。付近は一部裸地となっているところもあり、注意しないと、海側に滑落してしまうようなところもあった。付近にはオキナワハイネズの小群落も認められた。

### ウサギ

片浦波止直上の海食崖上部尾根の海岸側裸地部分に3カ所の兎の巣穴があり（図6）、周辺には新しい糞も認められた（図7）。その他、リュウキュウチクがまばらに混じる南日岳から小浦波止に至る北西部斜面上部（図8）、及びそれより下部のモクタチバナやハマビワなどが混じる林内にも巣穴が認められた。海岸部の小浦波止に続くニオウヤブマオが群生している小扇状地においても、多数の糞があちこちに認められたが、ニオウヤブマオ群落内及び周辺の丘陵部には巣穴は認められなかった。これらのことから、調査した範囲では、巣穴の多くは低地よりは高いところにあるものと思われた。

片浦波止直上の海食崖上部は一部裸地となっており、枝先が枯死している木や、完全に枯死した木も認められた。調査中、他の地域においても枝先が枯死している樹木が多数認められ、また、一部稜線上でも完全に枯死している木が認められたが、これらは、昨年（2004年）の台風が主な原因と思われた。片浦波止直上部の巣穴周辺部の裸地化や樹木の枯死も台風の影響が大きいと思われるが、木の直下、根の部分に巣穴があるものもあり、ウサギとの関連は完全には否定できなかった。しかし、調査した範囲では、新しく食害を受けたと思われる木は認められず、特有种とされるナンゴクアオイの群落も特に被害を受けているとは思われ

ない。兎の食草としては草本種が主要なものと思われるが、片浦波止の小扇状地でウサギを見たとの長嶋教授の報告もあり、ウサギ害調査のためには、さらなる調査が必要と思われる。

#### 宇治家島の有用樹種

有用樹種として、以下の種が上げられる。

##### クワ科 Moraceae

イヌビワ *Ficus erecta* Thunb. 紫黒倒卵～球果 7～17mm 食、若葉若芽食、  
葉飼料

オオイタビ *Ficus pumila* L. 雌嚢果可食、台湾でアイギョクイタビと同様の清涼食品（愛玉子）を作る、果（木饅頭）薬用止瀉、茎葉根薬用解毒打ち身

シマグワ *Morus australis* Poir. 暗赤集合果食酒、黄褐心材淡黄辺材床柱家具器具楽器

##### アケビ科 Lardizabalaceae

ムベ *Stauntonia hexaphylla* (Thunb.) Decne. 紅紫卵～楕円漿果 5～10cm 非裂開生食、果皮調理食、根茎薬用利尿強心、根鎮痛（図 3）

##### バラ科 Rosaceae

シャリンバイ *Rhaphiolepis indica* (L.) Lindl. var. *integerrima* (Hook. & Arn.) Kitamura 紫黒球果 7～13mm 食、種子粉食

リュウキュウバライチゴ *Rubus rosaefolius* J. E. Sm. var. *maximowiczii* Focke 果食

##### ブドウ科 Vitaceae

テリハノブドウ *Ampelopsis brevipedunculata* (Maxim.) Trautv. forma *glabrifolia* (Honda) Kitamura 若芽煮食

エビヅル *Vitis ficifolia* Bunge 粉白球黒紫漿果 6～11mm 食、若葉調理食

##### グミ科 Elaeagnaceae

マルバグミ *Elaeagnus macrophylla* Thunb. 赤漿果 12～20mm 径 7～10mm、液果肉やや酸食リキュール（図 5）

##### ユリ科 Liliaceae

ハマサルトリイバラ *Smilax sebeana* Miq. 若芽食、葉包み料



図1. 南日岳頂上へ続く階段



図2. シマグワとその幼果



図3. ムベ



図4. ナンゴクアオイ



図5. マルバグミ



図6. 片浦波止海食崖直上尾根の兔の巣穴



図7. 巣穴（図6）付近の糞



図8. 北西部斜面上部の巣穴